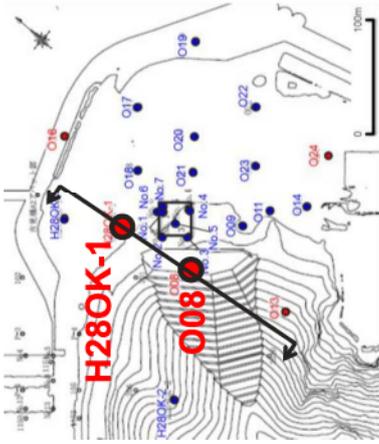
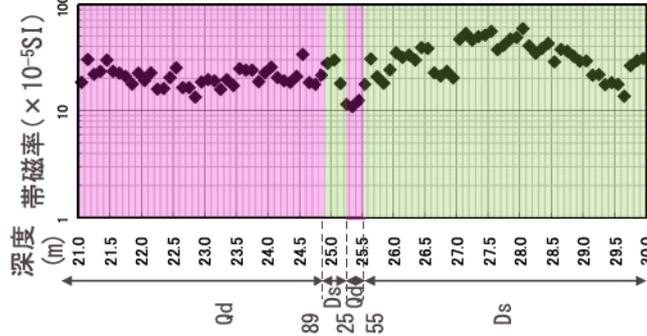
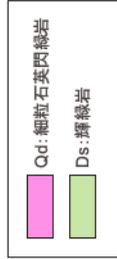


位置図



コア写真

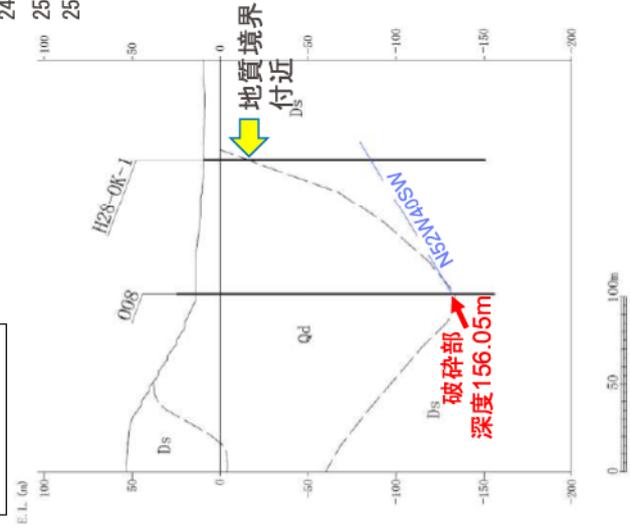


H28OK-1孔 岩種境界付近のコア写真

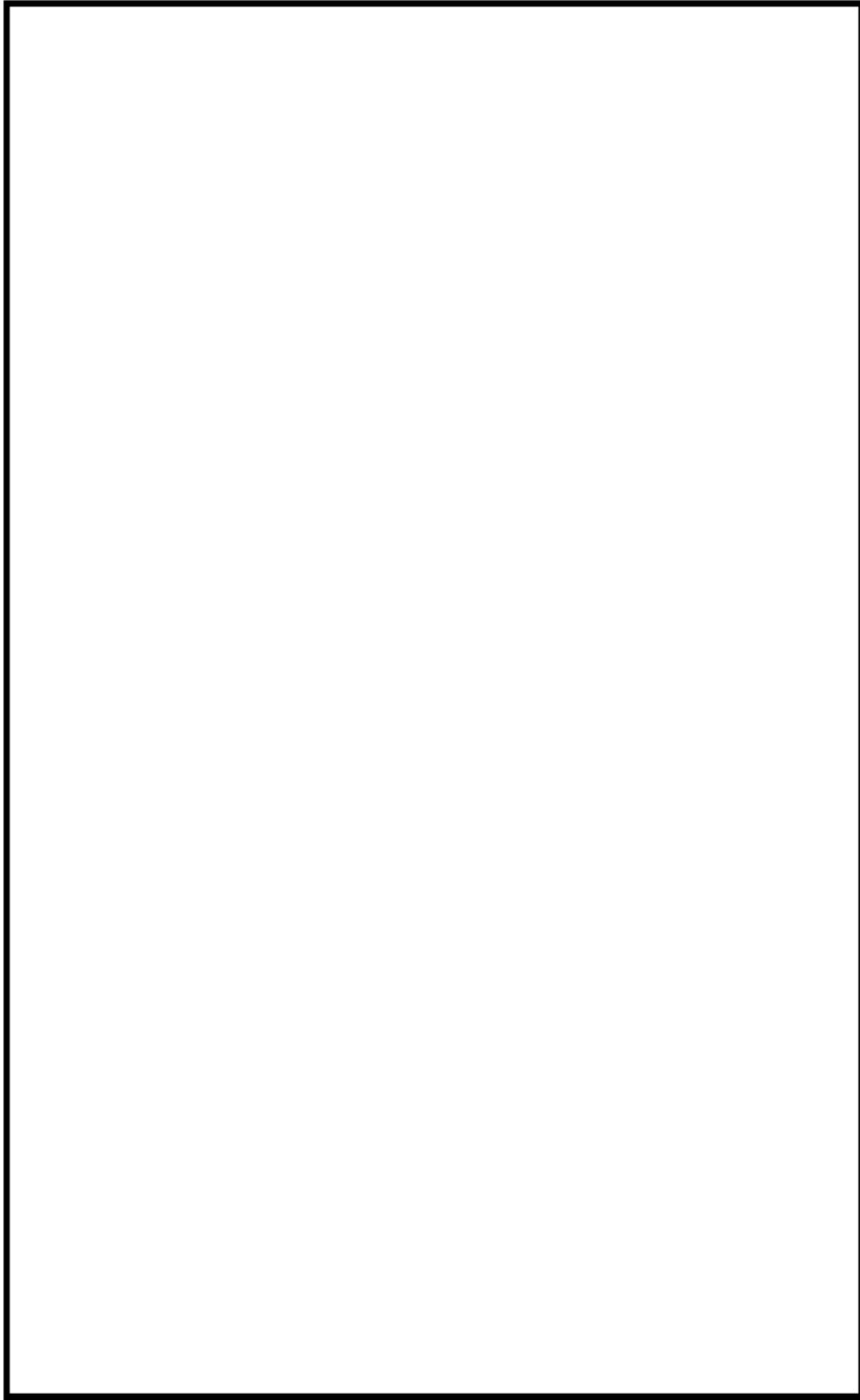


下線凡例  
岩種境界

断面位置

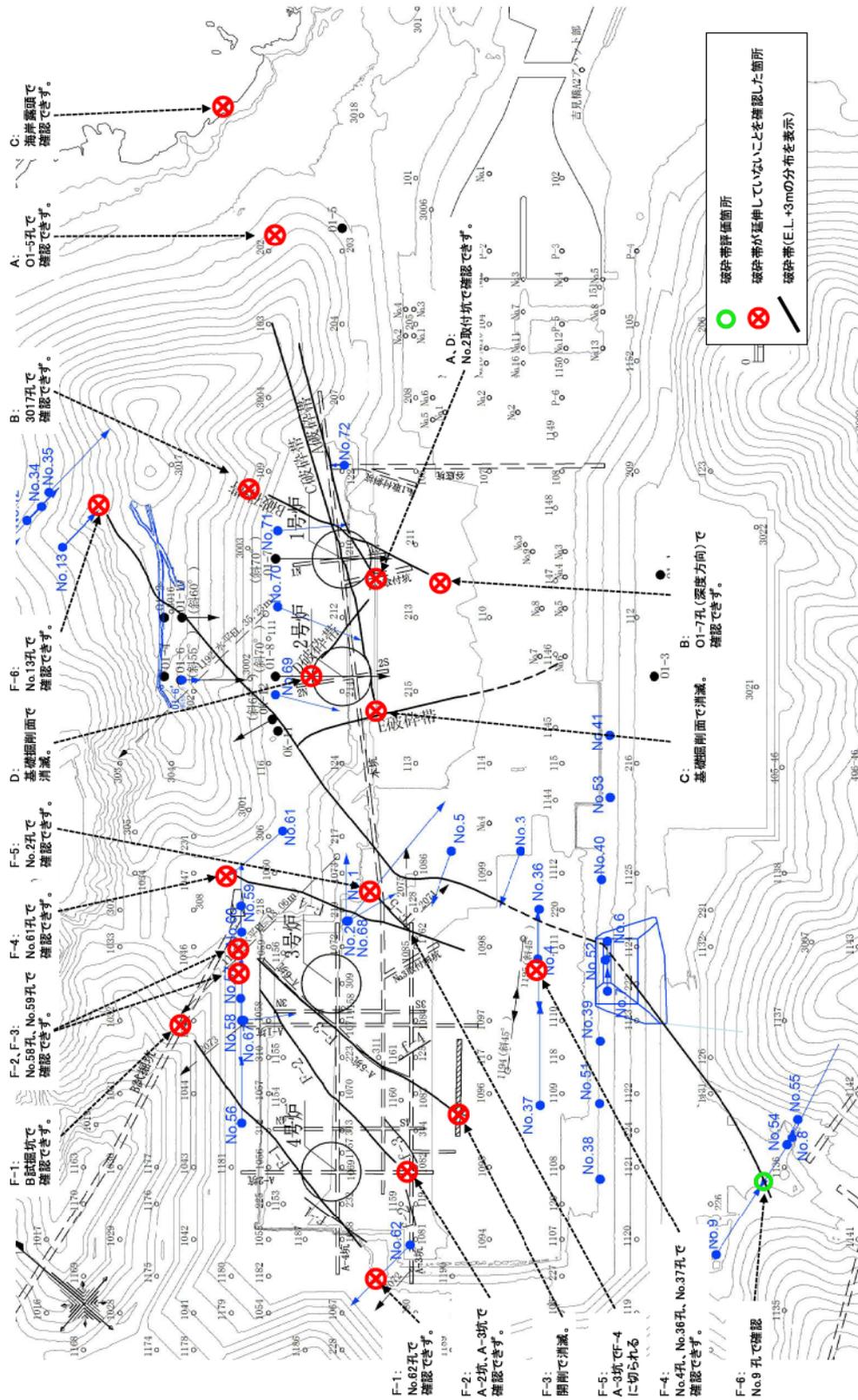


・H28OK-1孔の細粒石英閃緑岩と輝緑岩の境界付近において破砕部は認められない。



第 3.5.42 図 耐震重要施設及び非常設重大事故等対処施設と設置地盤に認められる破砕帯の位置関係

枠囲みの範囲は機密に係る事項ですので公開することは出来ません。

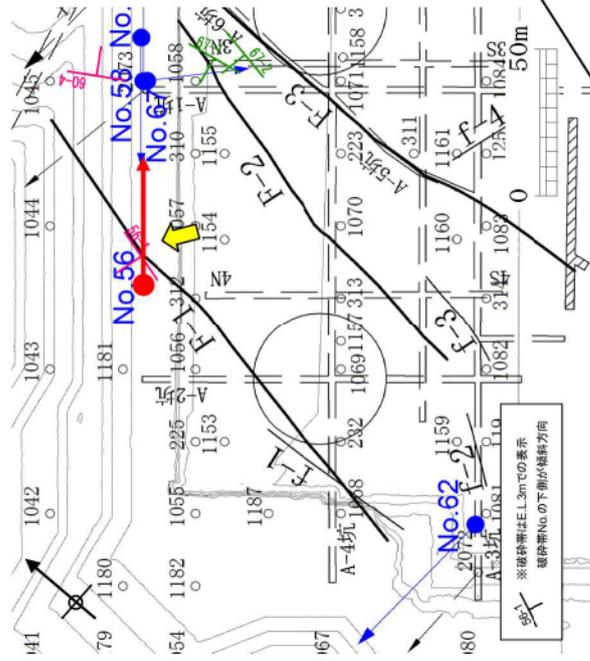


破砕帯	端点の評価		最大評価長さ(m)
	北端	南端	
F-1	北試掘坑	No.62孔	220
F-2	No.58孔、No.59孔	A-2坑、A-3坑	180
F-3	No.58孔、No.59孔	開削	190
F-4	No.61孔	No.4孔、No.36孔、No.37孔	220
F-5	No.2孔	A-3坑	40
F-6	No.13孔	No.9孔以南	650以上

破砕帯	端点の評価		最大評価長さ(m)
	北端	南端	
A	O1-5孔	No.2取付坑	230
B	3017孔	O1-7孔(深度方向)	190
C	海岸露頭	基礎掘削面	410
D	No.2取付坑(東端)	基礎掘削面(西端)	70
E	輝緑岩と細粒石英閃緑岩の境界に沿って分布		120以上

第 3.5.43 図 耐震重要施設及び常設重大事故等対処施設の設置地盤に認められる主な破砕帯の連続性確認結果

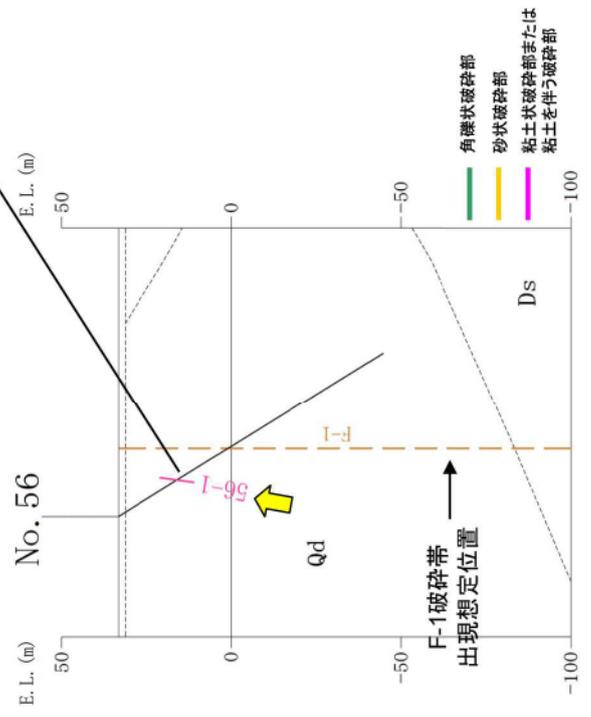
# F-1 破碎帯(No.56孔)



No.56ボーリング(孔口標高:E.L.33.24m、掘進方向:49.1°、掘進角度:60°、掘進長:90m)



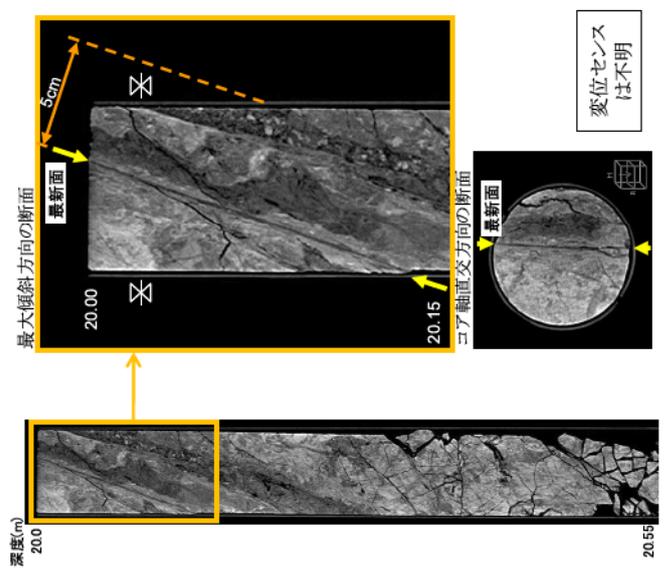
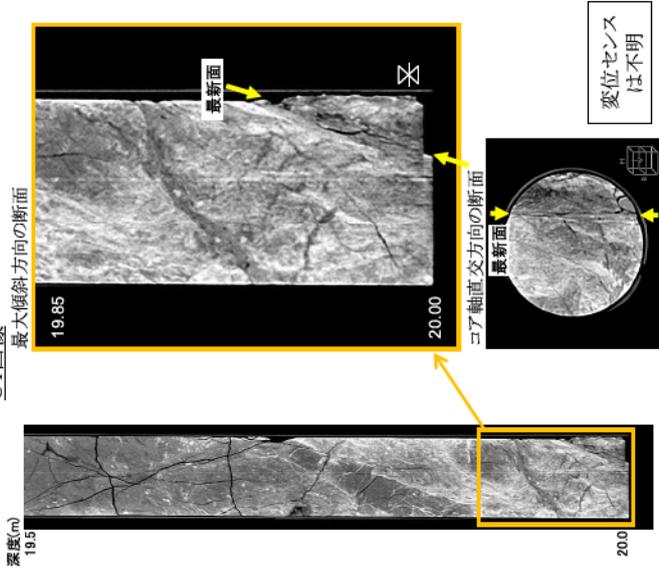
深度19.90m~20.20m  
 ・細粒石英閃緑岩中の粘土を伴う礫混り砂状破砕部(NI5E/86W)  
 ・破砕帯幅:5cm、粘土幅:5mm、未固結



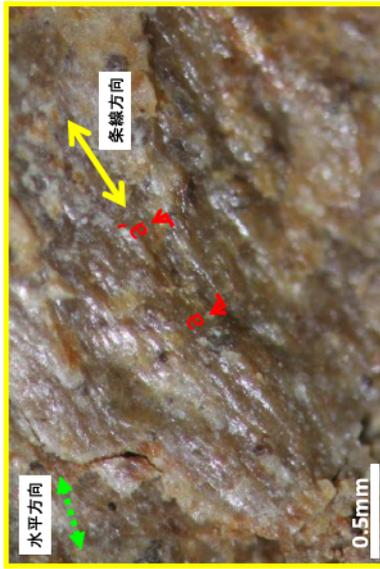
第 3.5.44 図 F-1 破碎帯 ボーリングコア観察結果 (No.56 孔)

# F-1 破砕帯(No.56孔)

CT画像



条線観察



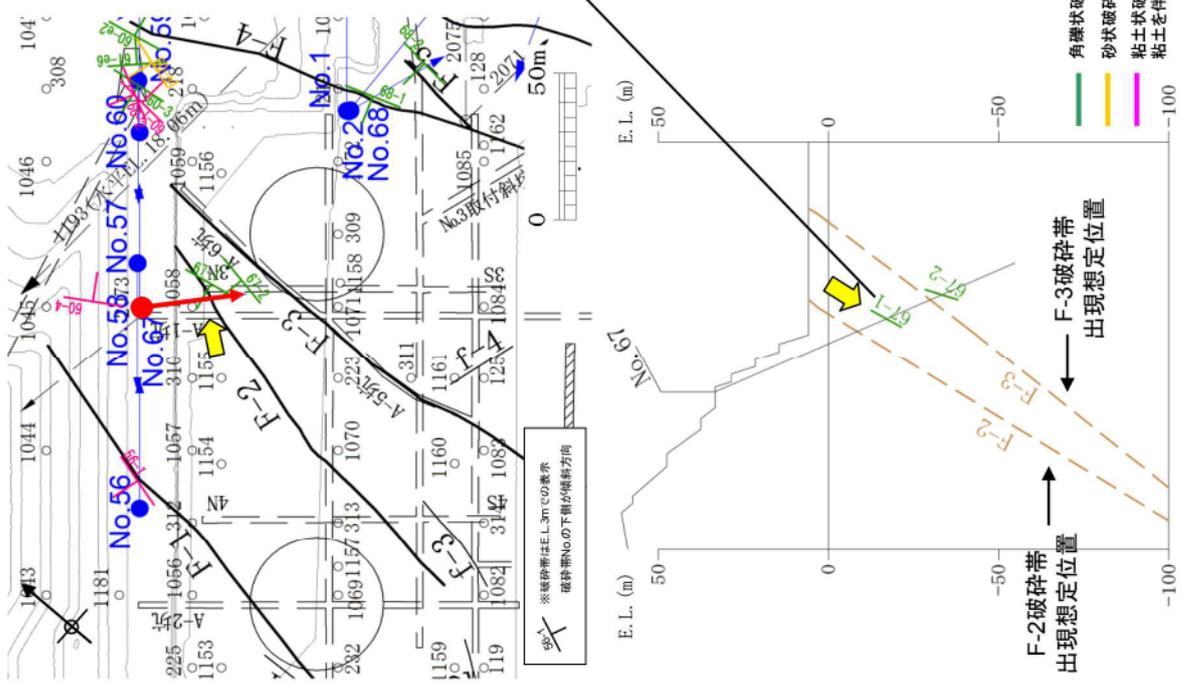
断面面の状況  
右横ずれ正断層セシス



断面面の状況  
右横ずれ正断層セシス

レイク18° Lの右横ずれ・  
正断層セシスが認められた

# F-2破砕帯(No.67孔)



No.67ボーリング(孔口標高:E.L.33.27m、掘進方向:132.1°、掘進角度:68°、掘進長:95m)

深度(m) 53 54 55 56

深度54.15m~54.25m

- ・細粒石英閃緑岩中の砂混り角礫状破砕部(N11W/73W)
- ・破砕帯幅:11cm、粘土幅:0mm

破砕部付近拡大

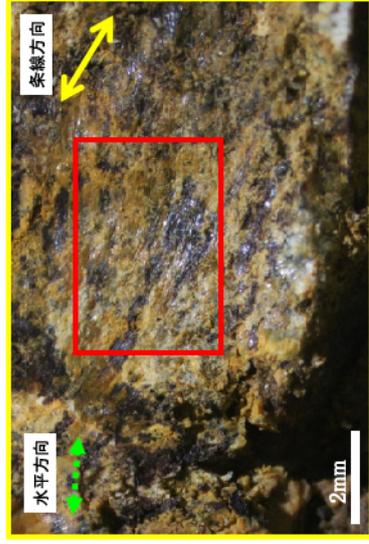
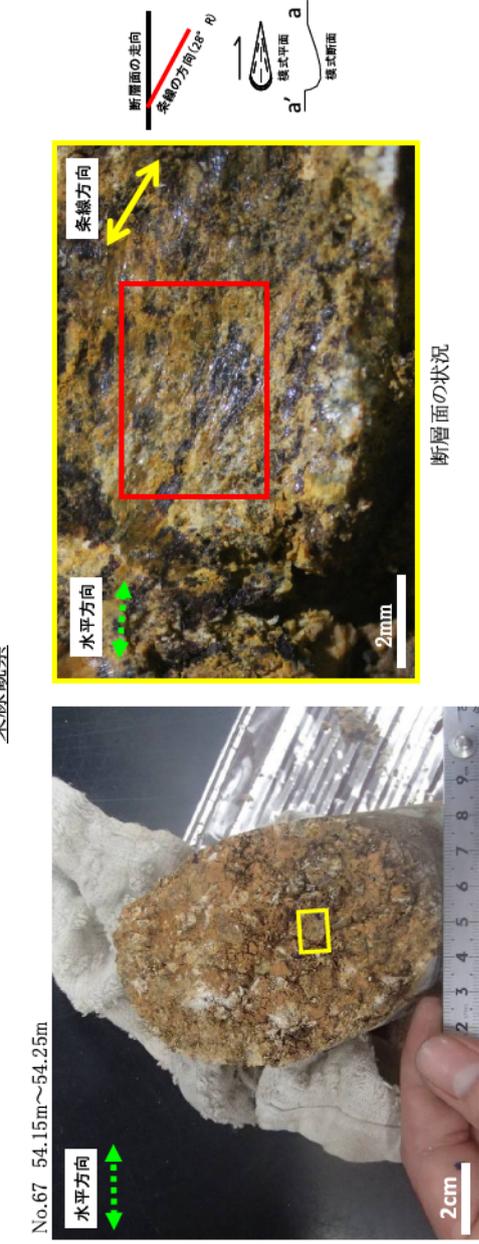
54.1 54.2 54.3

10cm

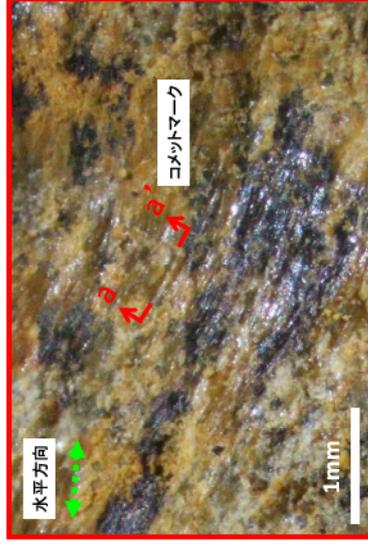
第3.5.46図 F-2破砕帯 ボーリングコア観察結果 (No. 67 孔)

# F-2破砕帯(No.67孔)

## 糸線観察



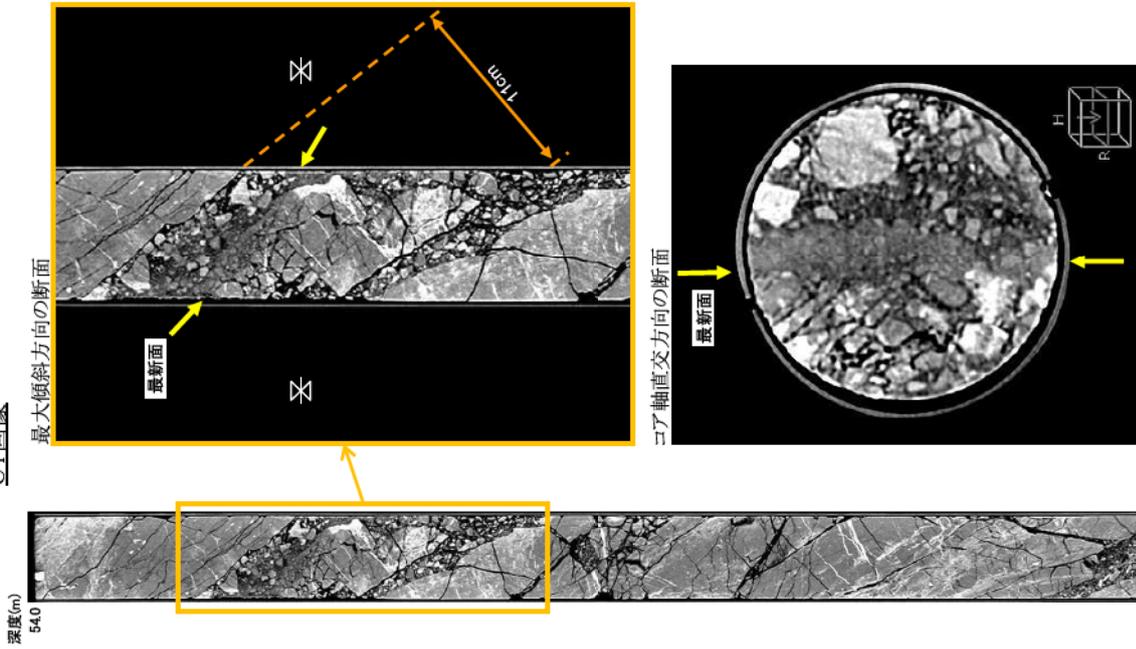
断層面の状況



左横ずれ正断層

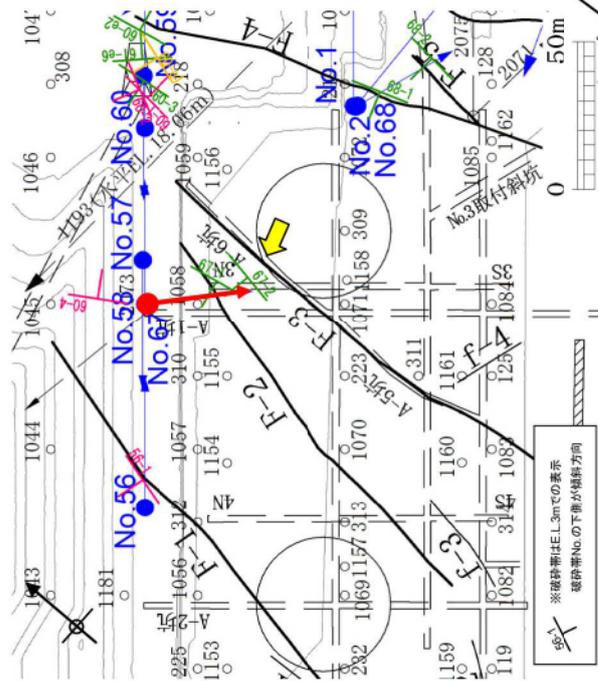
レイク28° Rの左横ずれ・正断層センスが認められた

## CT画像



最新面はやや湾曲している。  
 破砕幅約11cm  
 縦ずれ成分：不明、横ずれ成分：不明

# F-3破砕帯(No.67孔)



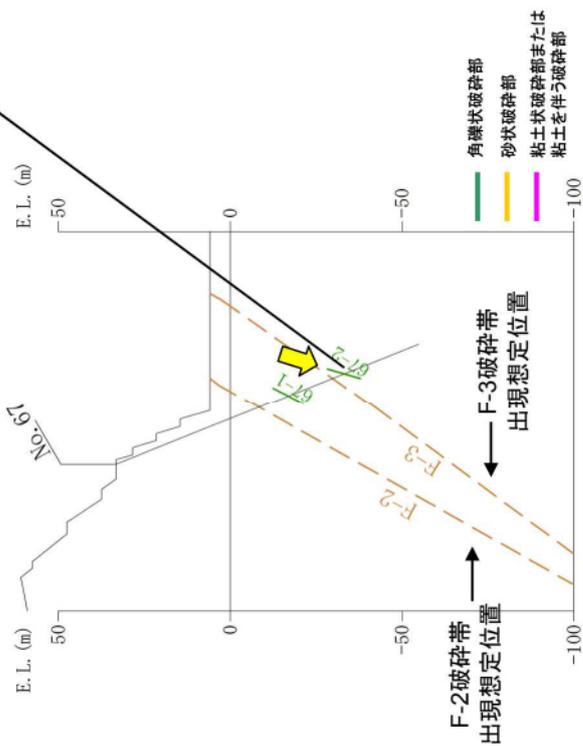
No.67ボーリング(孔口標高:E.L.33.27m、掘進方向:132.1°、掘進角度:68°、掘進長:95m)



深度71.60m~71.78m

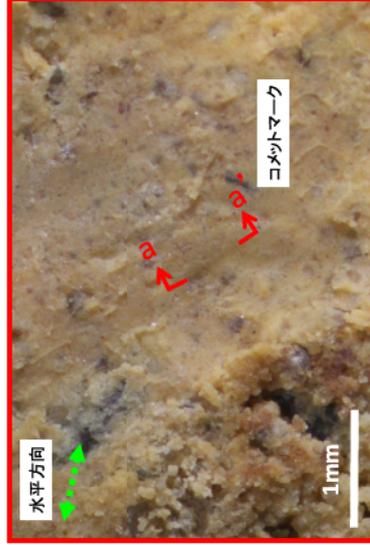
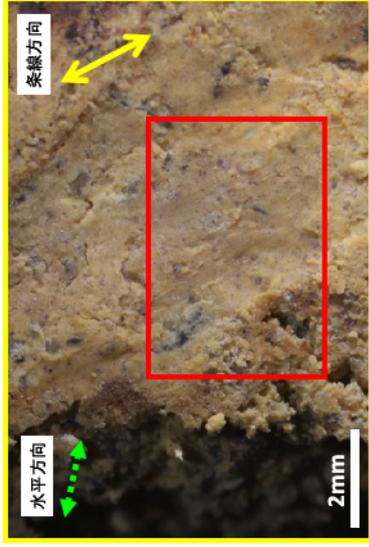
- ・細粒石英閃緑岩中の固結した角礫状破砕部(灰白色)
- 破砕帯幅:6cm、粘土幅:0mm
- ・細粒石英閃緑岩中の角礫状破砕部(N10E/76W)(褐色)
- 破砕帯幅:6cm、粘土幅:0mm

破砕部付近拡大

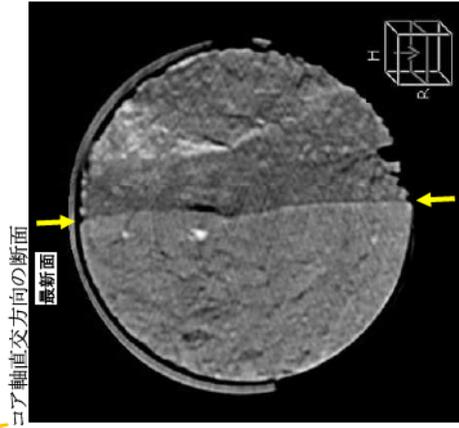
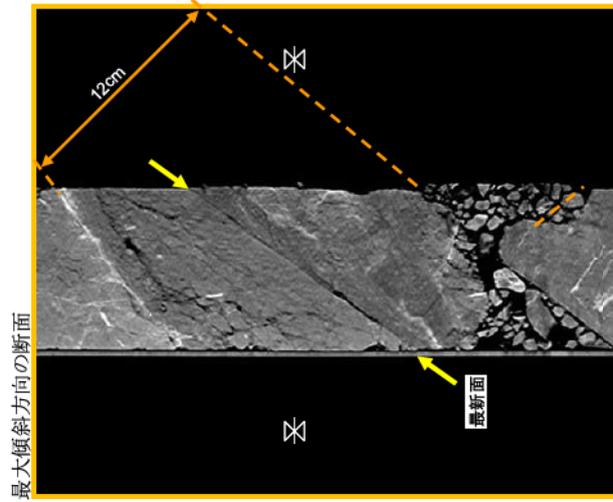


# F-3破砕帯(No.67孔)

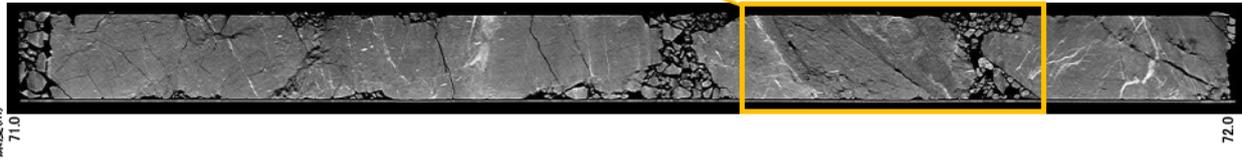
条線観察



CT画像

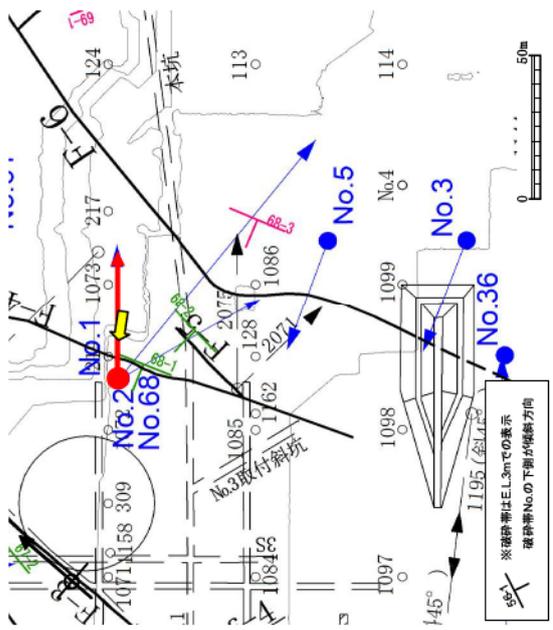


最新面はやや湾曲している。  
破砕幅約12cm、上盤に比べ下盤は密度がやや低い。  
縦ずれ成分: 逆断層(上盤、カタクレーサイト)  
正断層(下盤、角礫状破砕部)  
横ずれ成分: 不明



レイク50° Rの左横ずれ・  
正断層センスが認められた

# F-4破砕帯(No.1孔)



深度(m) No.1ボーリング(孔口標高:E.L.9.76m、掘進方向:49°、掘進角度:70°、掘進長:135m)

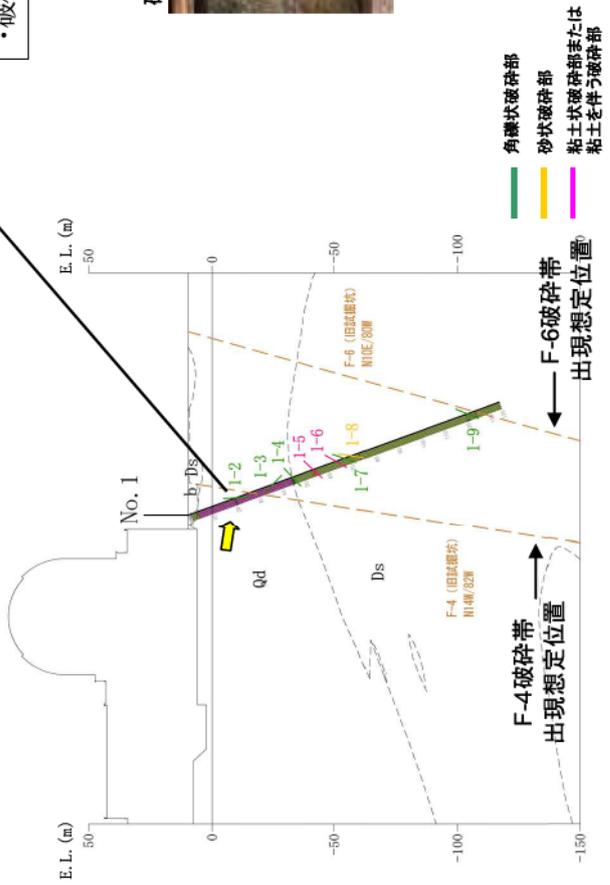


深度20.45m~20.70m  
 ・細粒石英閃緑岩中の砂混り角礫状破砕部 (N33W/87NE)  
 ・破砕帯幅:8cm、粘土幅:0mm、固結

破砕部付近拡大



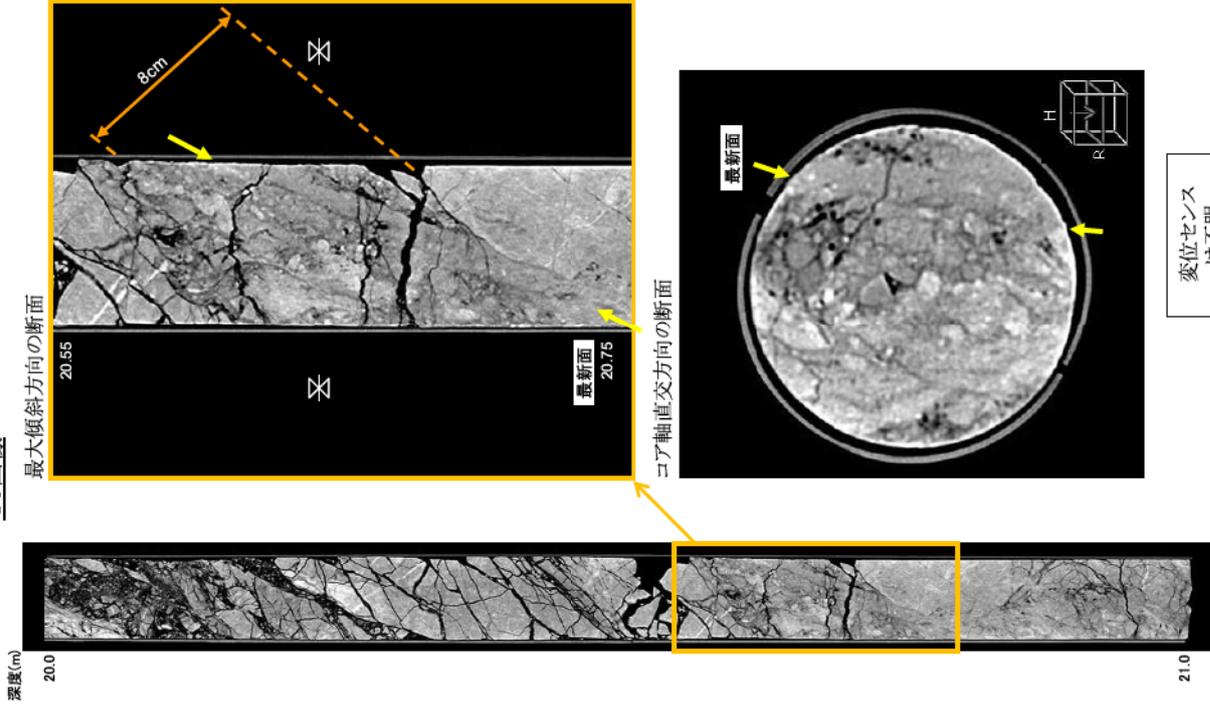
10cm



第 3.5.50 図 F-4 破砕帯 ボーリングコア観察結果 (No. 1 孔)

# F-4破砕帯(No.1孔)

## CT画像



変位セシンス  
は不明

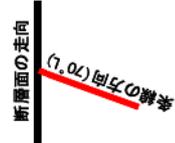
## 糸線観察



No.1 20.60mの断面(上盤下面)



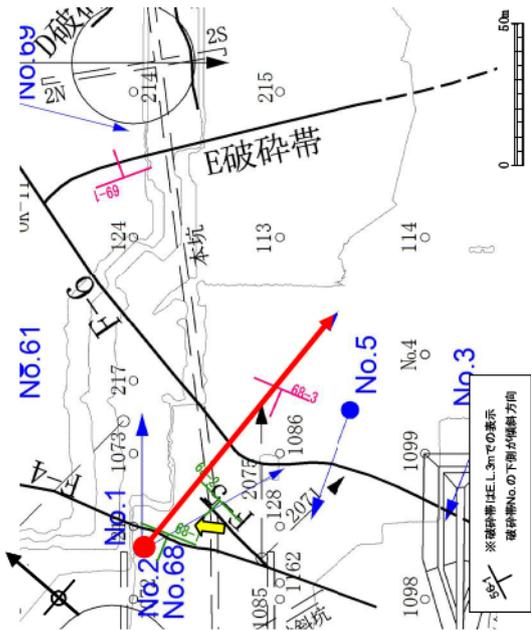
断面面の状況



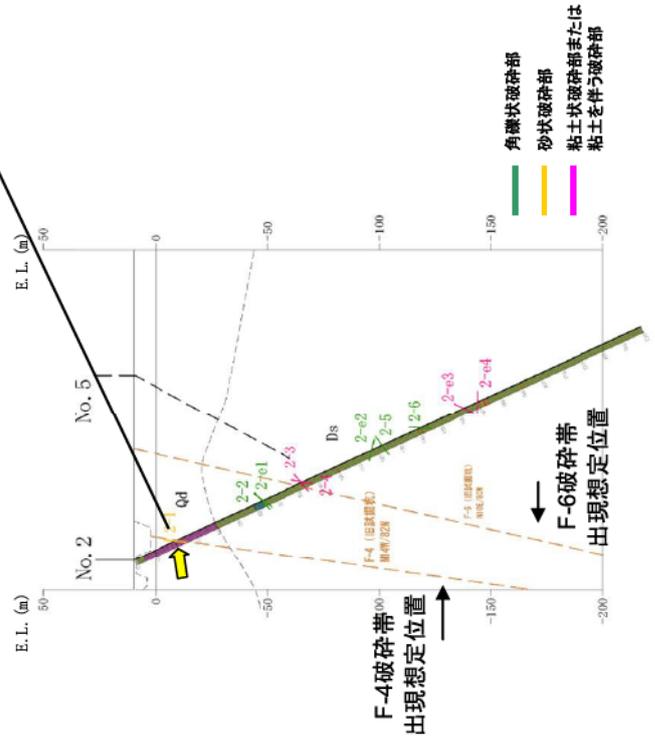
右横ずれ正断層セシンス

レイク70° Lの右横ずれ・  
正断層セシンスが認められた

# F-4破碎帯(No.2孔)



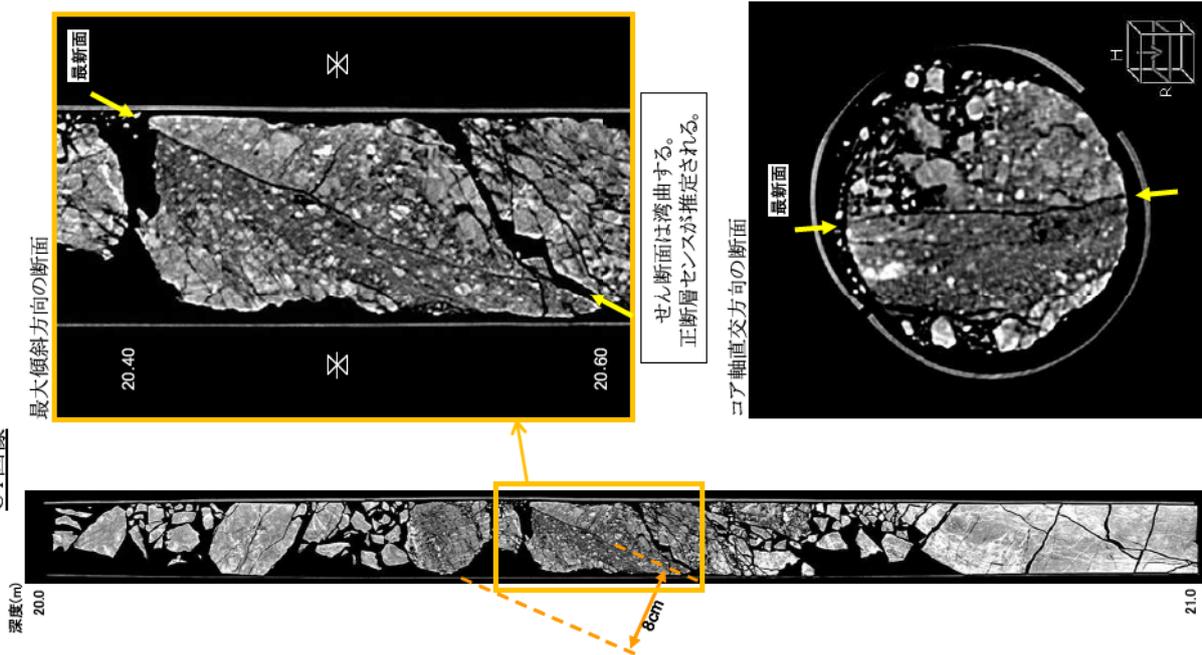
深度20.35m~20.60m  
 ・細粒石英閃緑岩中の礫混り砂状破砕部 (N38W/85SW)  
 ・破砕帯幅: 20cm (肉眼観察)、粘土幅: 0mm、固結



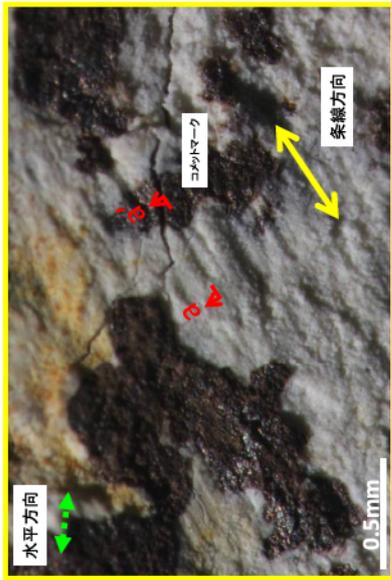
第 3.5.52 図 F-4 破碎帯 ボーリング コア 観察結果 (No. 2 孔)

# F-4破砕帯(No.2孔)

## 糸線観察



No.2孔 20.55mの断面(上盤下面)



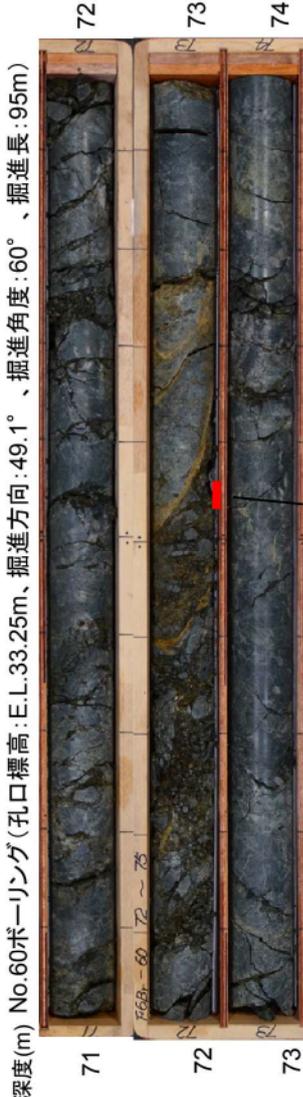
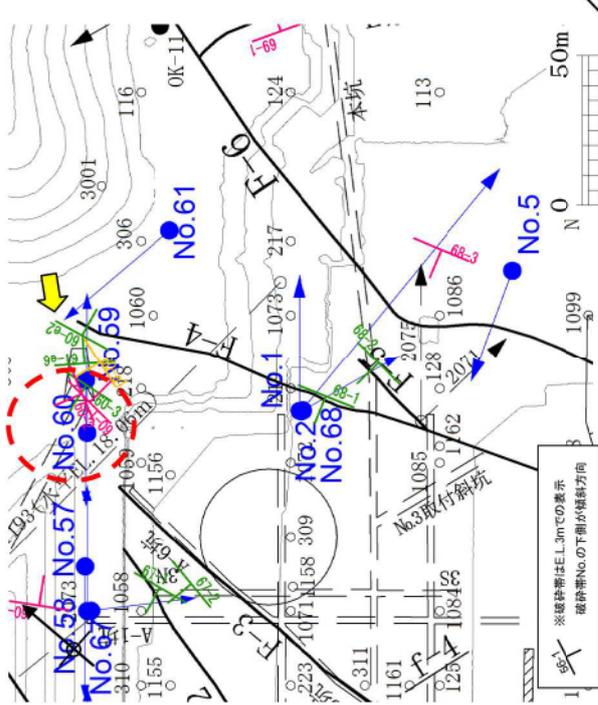
断面面の状況



左横ずれ正断層セシス

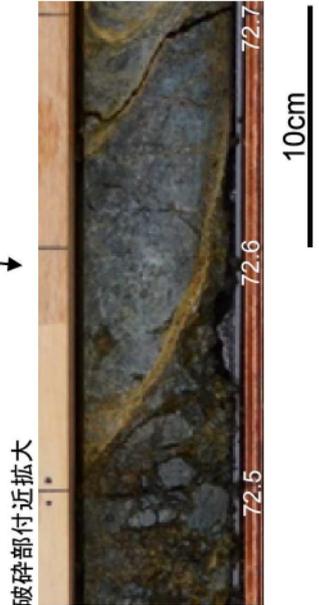
レイク40° Rの左横ずれ・正断層セシスが認められた

# F-4破砕帯(No.60孔)

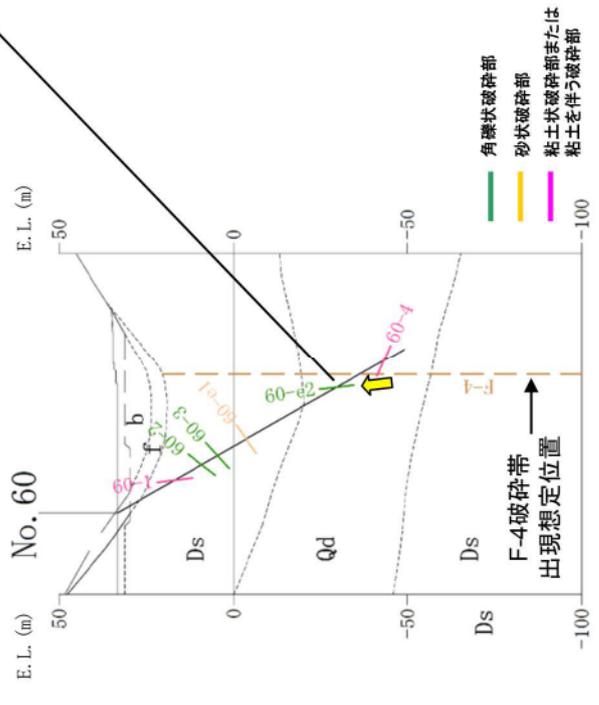


深度(m) No.60ボーリング(孔口標高:E.L.33.25m、掘進方向:49.1°、掘進角度:60°、掘進長:95m)

深度72.55m  
 ・細粒石英閃緑岩中の角礫状破砕部 (N12W/84E)  
 ・破砕帯幅:0.5cm、粘土幅:0mm、固結



破砕部付近拡大



第3.5.54図 F-4破砕帯 ボーリングコア観察結果 (No. 60 孔)

# F-4破砕帯(No.60孔)

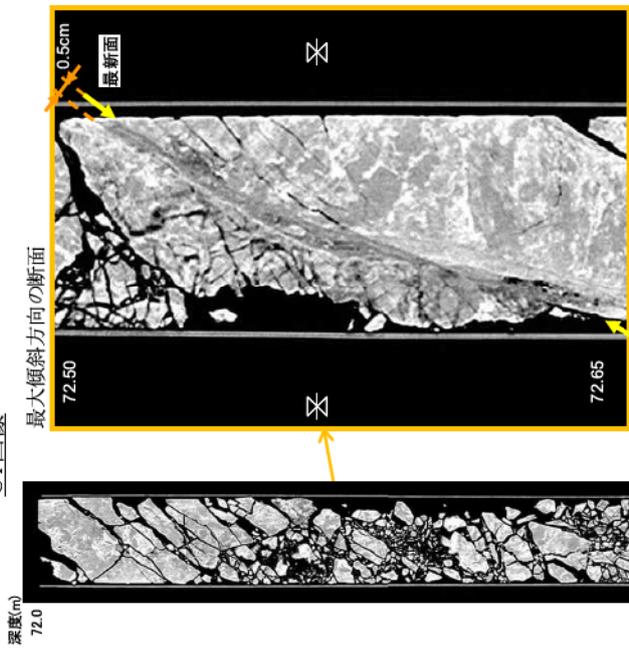
## 条線観察



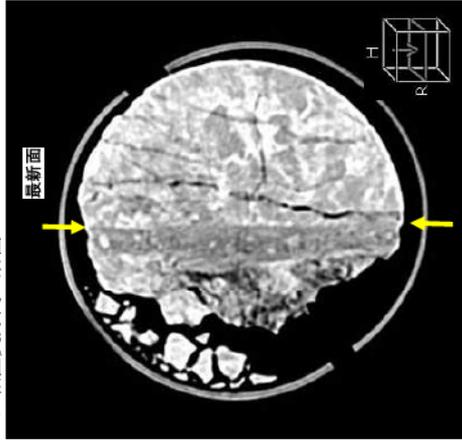
左横ずれ正断層センス

レイク60° Rの左横ずれ・正断層センスが認められた

## CT画像後

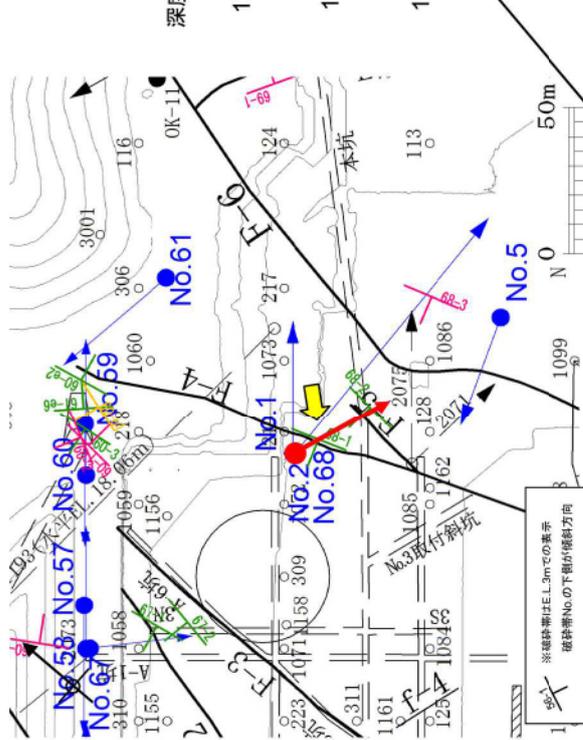


コア軸直交方向の断面

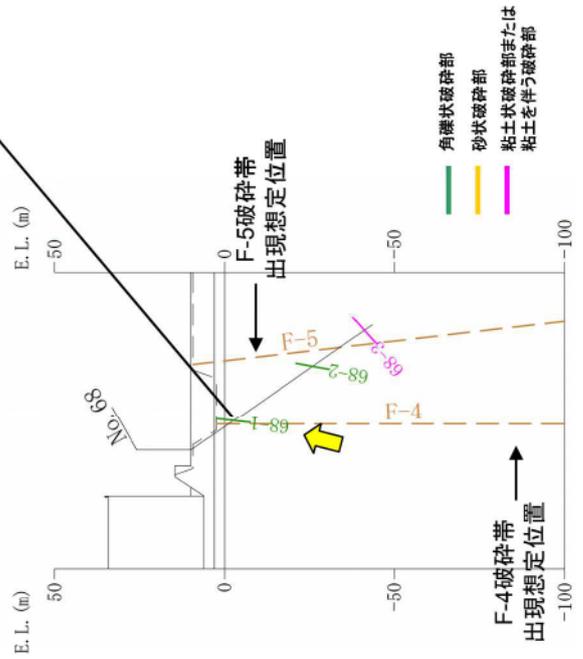


幅5mm程の破砕部が認められる。  
変位センスは不明。

# F-4破砕帯(No.68孔)

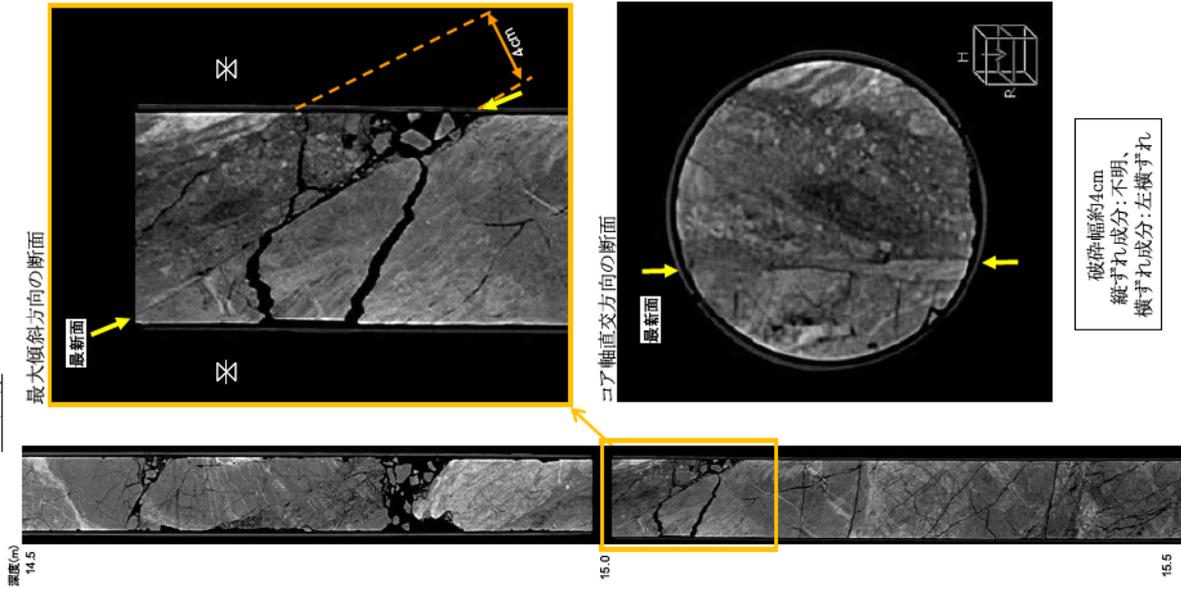


深度14.95m~15.00m  
 ・細粒石英閃緑岩中の角礫状破砕部(N19W/85W)  
 ・破砕帯幅:4cm、粘土幅:0mm



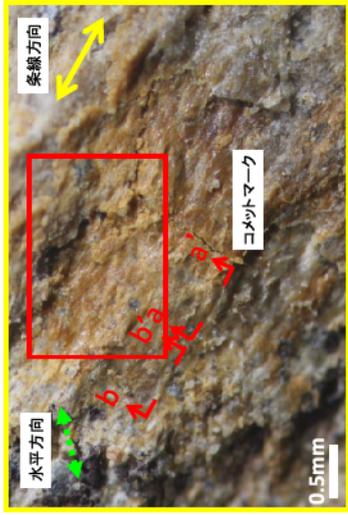
# F-4破砕帯(No.68孔)

## CT画像



破砕幅約4cm  
縦ずれ成分：不明、  
横ずれ成分：左横ずれ

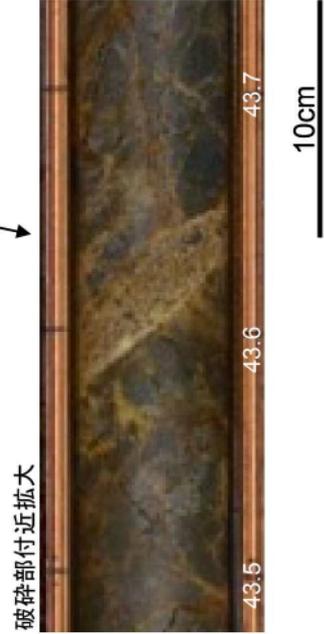
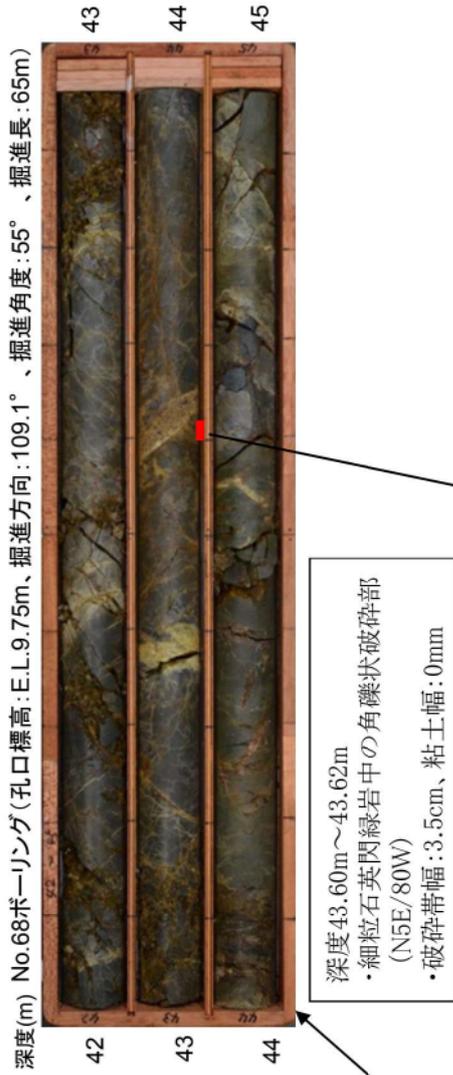
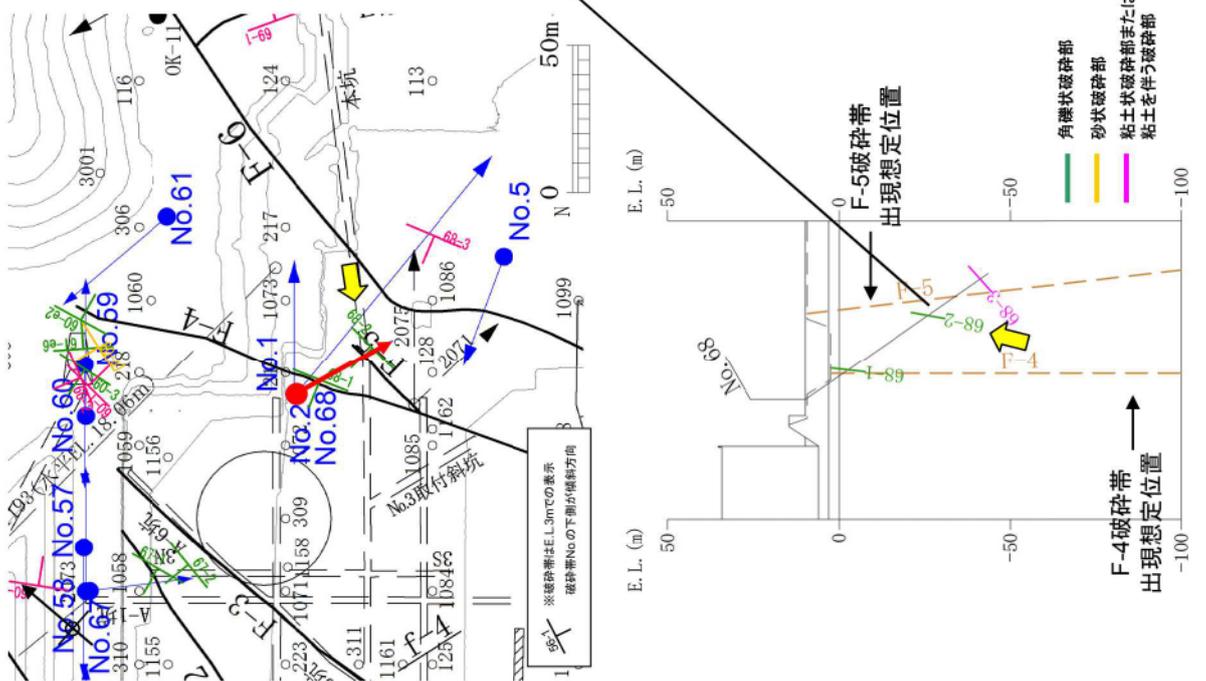
## 条線観察



レイク40° Lの左横ずれ・  
逆断層センスが認められた



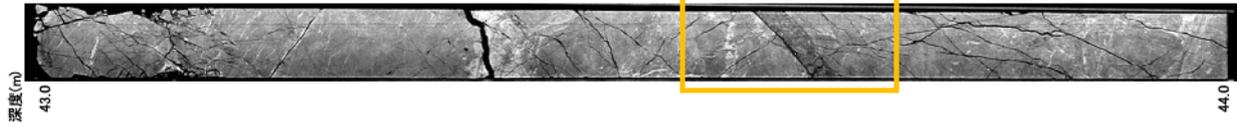
# F-5破砕帯(No.68孔)



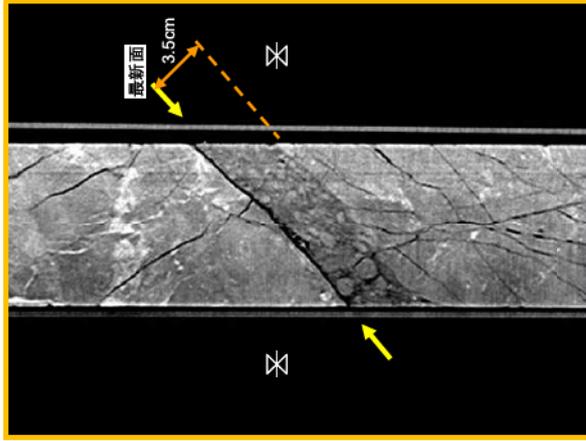
第 3.5.58 図 F-5 破砕帯 ボーリングコア観察結果 (No. 68 孔)

# F-5破砕帯(No.68孔)

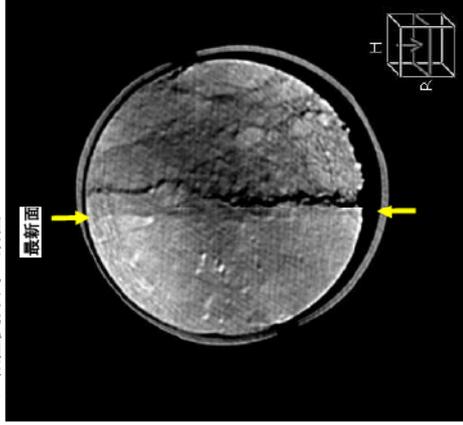
## CT画像



最大傾斜方向の断面



コア軸直交方向の断面

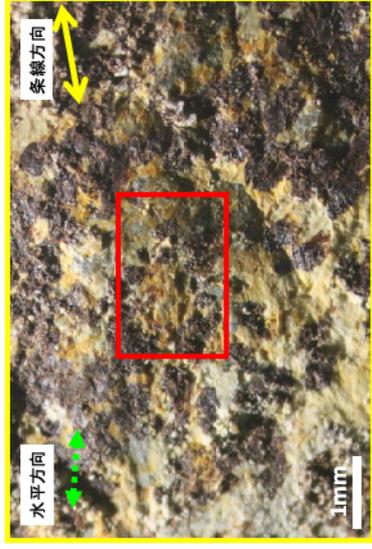


破砕幅約3cm  
縦ずれ成分：不明、横ずれ成分：不明

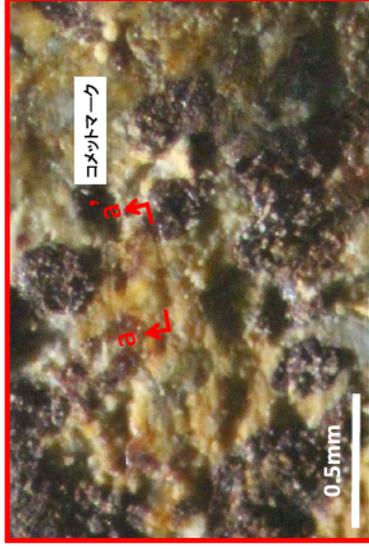
## 糸線観察



断面面(上盤下面)

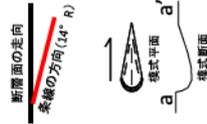


断面面の状況



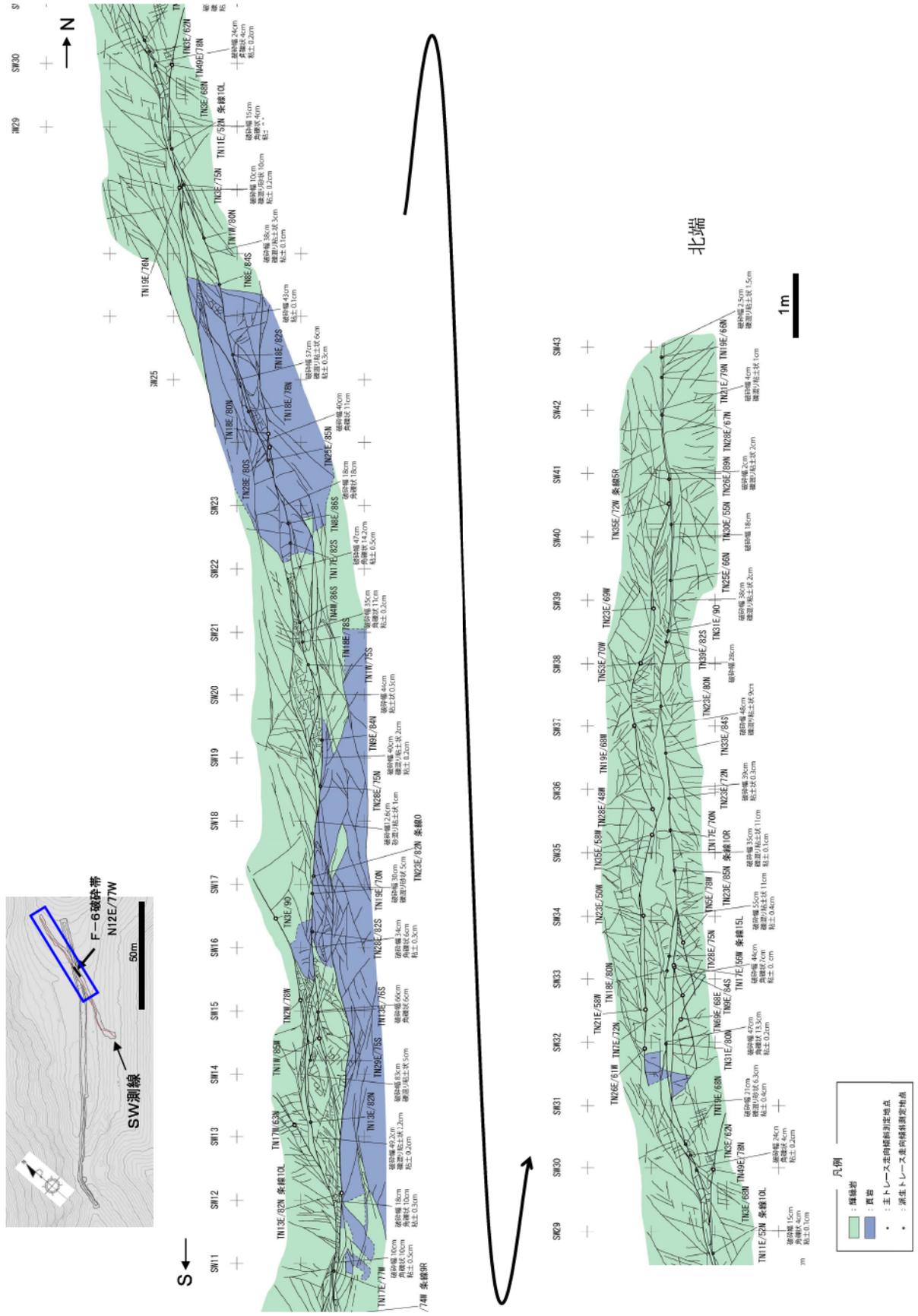
左横ずれ正断層

レイク14° Rの左横ずれ・  
正断層センスが認められた

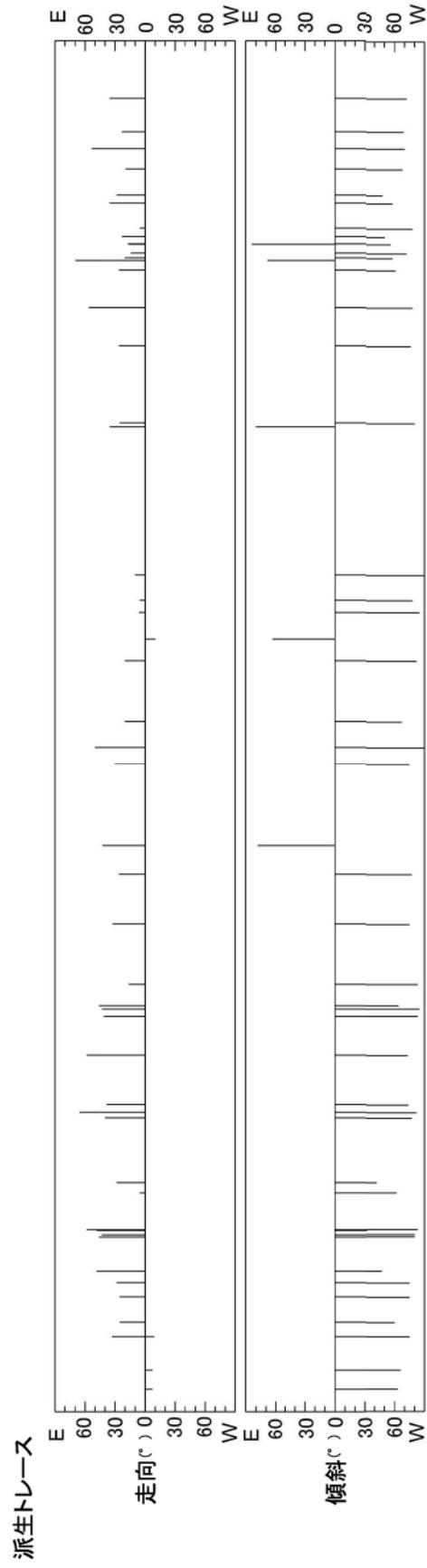
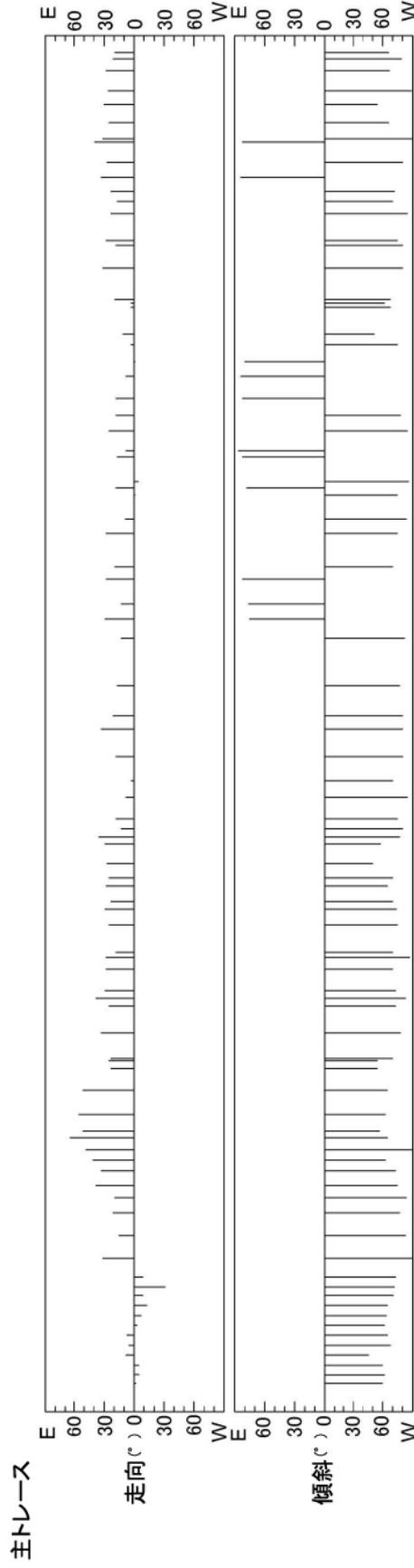
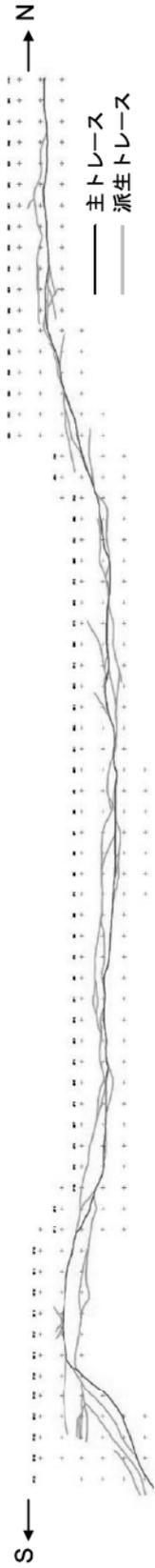






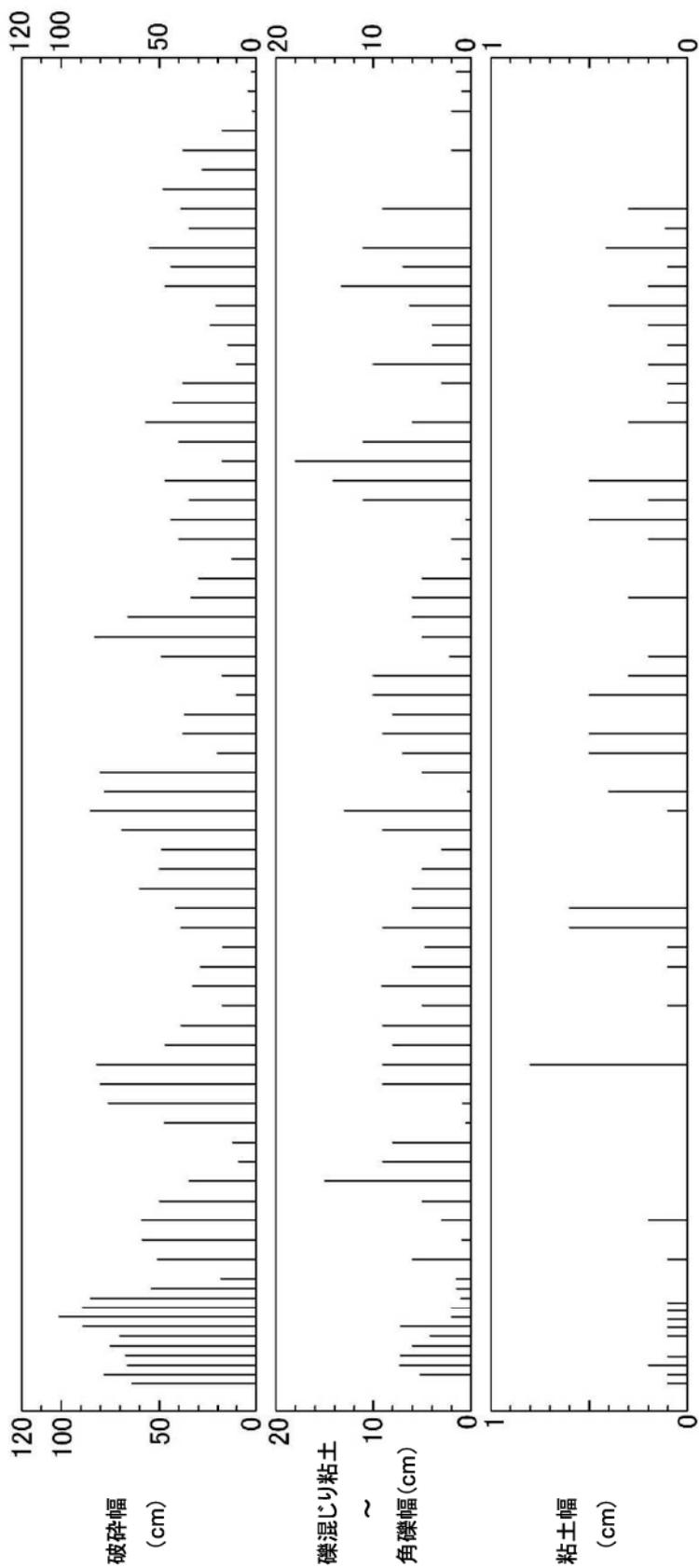
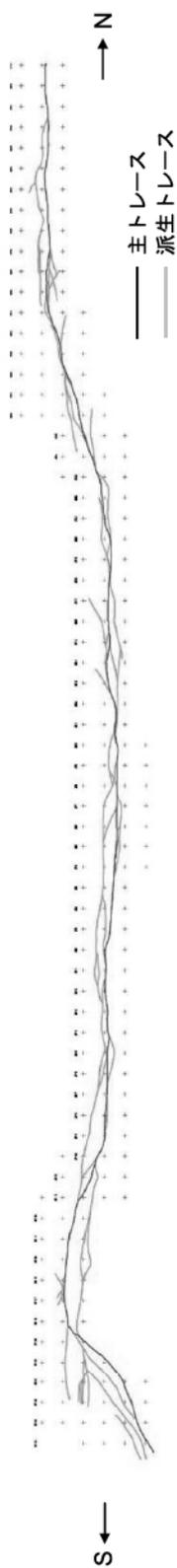


第 3.5.61 図(2) 山頂トレンチ底盤スケッチ その 2 (SW 測線北側、SW43～SW11) 6-3-791



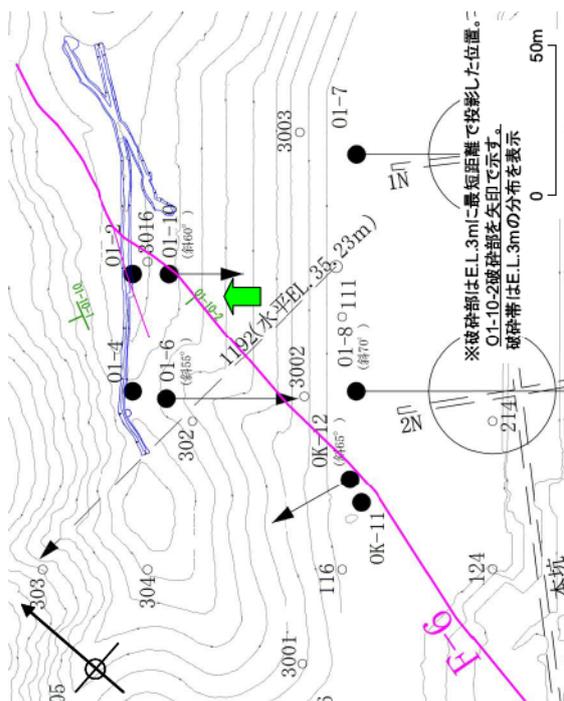
・破砕帯全長にわたり、主トレースについて概ね1m間隔で走向・傾斜を計測した。  
 ・走向は、概ねN5° E~N40° E、N20±15° E(1σ)を示し、南端部では概ねN5° E~N30° Wを示す。  
 ・傾斜は、75W±13° (1σ)を示し、南半分では高角西傾斜、北半分では高角で西傾斜および東傾斜、南端部では中角度南傾斜する。

第 3.5.62 図 F-6 破砕帯の走向傾斜測定結果



- F-6破砕帯の破砕帯幅、角礫状～礫混じり粘土状破砕部幅、粘土状破砕部(粘土)幅の計測を行った。
- 破砕帯幅は概ね10cm～80cm(平均45.4cm)である。角礫状～礫混じり粘土状破砕部幅は概ね5cm～15cm(平均5.9cm)である。粘土幅は概ね0.1cm～0.6cm(平均0.2cm)であり、非常に薄い。
- 南端部では破砕帯幅が広いが、北端部では破砕帯幅が狭くなり、破砕帯幅は2.5cmに収束する。

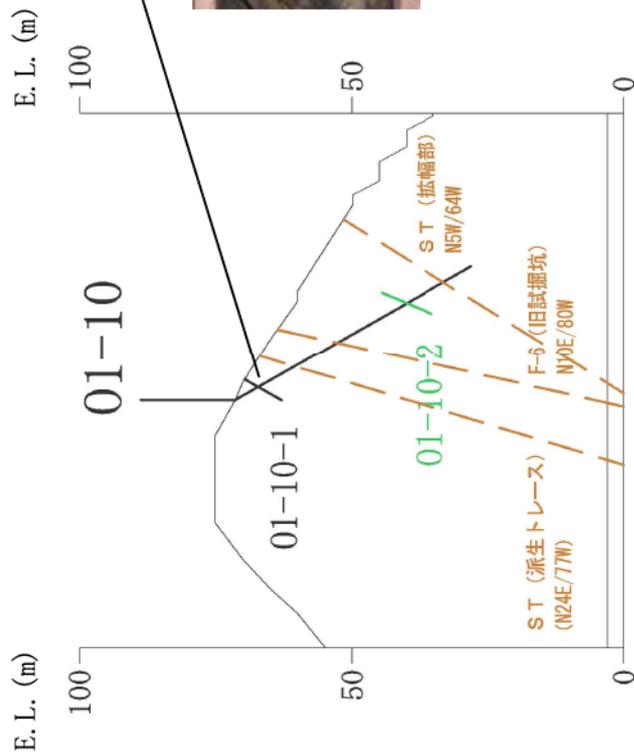
# F-6破碎帯(O1-10孔)



深度(m) O1-10ボーリング(孔口標高:E.L.71.36m、掘進方向:139°、掘進角度:60°、掘進長:50m)



深度36.15m~36.40m  
 ・輝緑岩中の幅10~15cmの固結した角礫状破碎部(N10E/72W)  
 ・明瞭な粘土は見られない



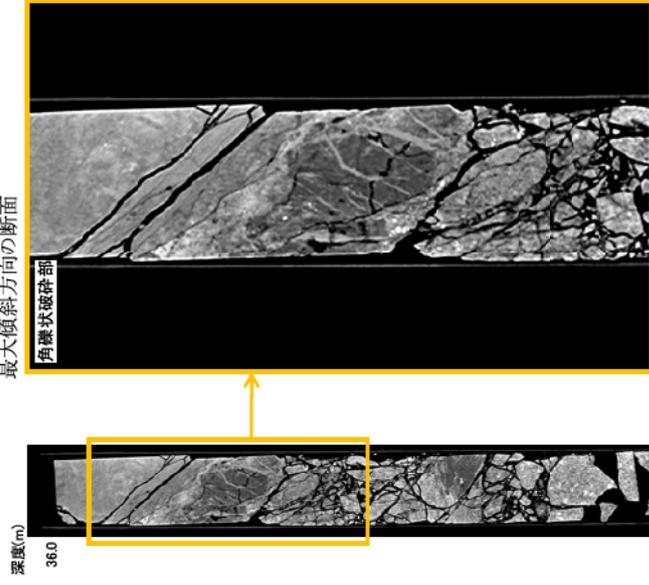
破碎部付近拡大



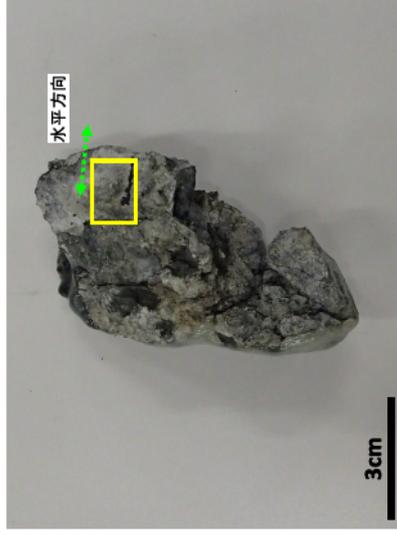
第 3.5.64 図 F-6 破碎帯 ボーリングコア観察結果 (O1-10 孔)

# F-6 破碎帯(OI-10孔)

## CT画像



## 条線観察



CT画像解析の結果、角礫状破碎部が主体である。

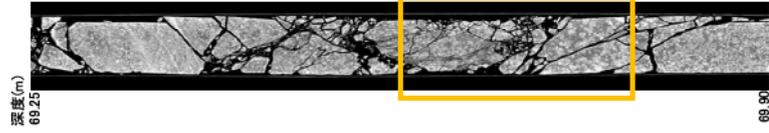
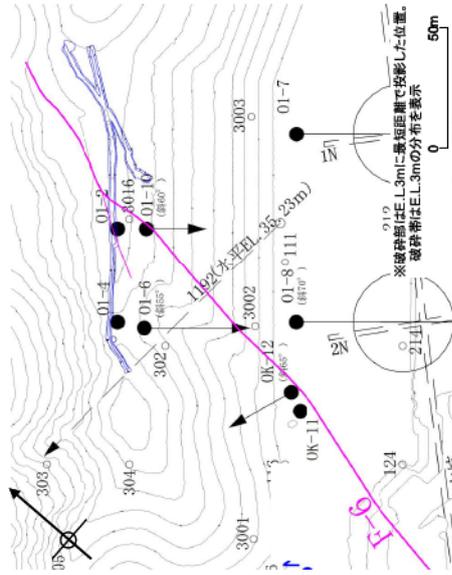
# F-6破砕帯(O1-6孔)

深度(m) O1-6孔ボーリング(孔口標高: E.L.62.56m、掘進方向: 139°、掘進角度: 55°、掘進長: 77m)



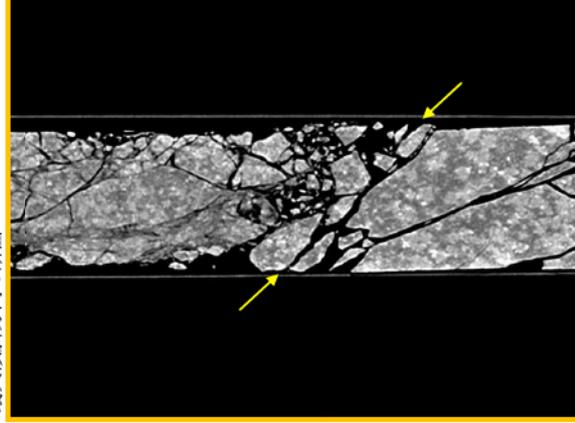
深度69.40m~69.70m  
・角礫状破砕部。上端境界70°、下端境界70°

破砕部付近拡大

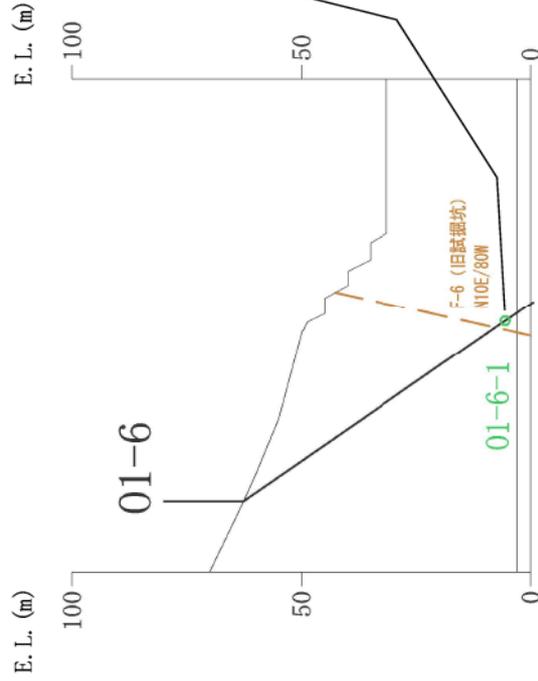


CT画像

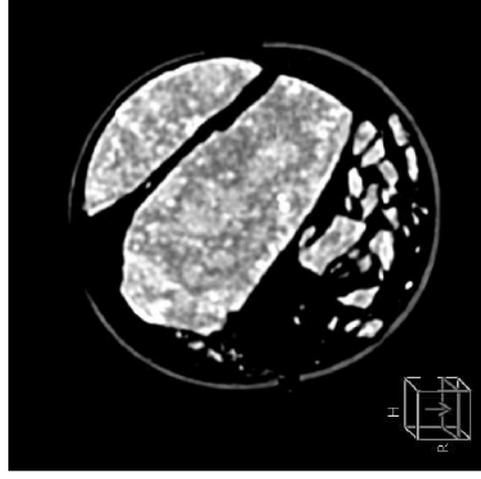
最大傾斜方向の断面



角礫状破砕部の断面の傾斜は見かけ60°程度



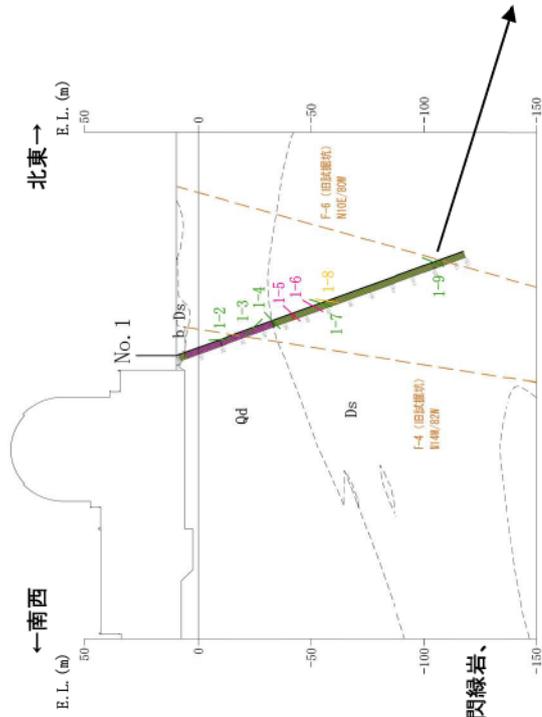
コア軸直交方向の断面



CT画像解析の結果、最も細片化が進んだ角礫状破砕部の幅は10cm、断面の傾斜は見かけ60°程度である。

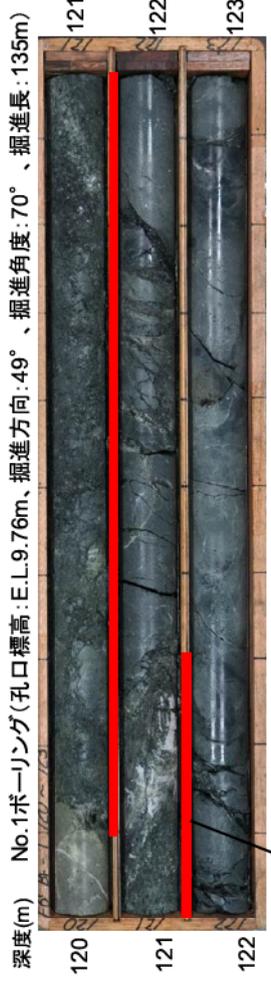
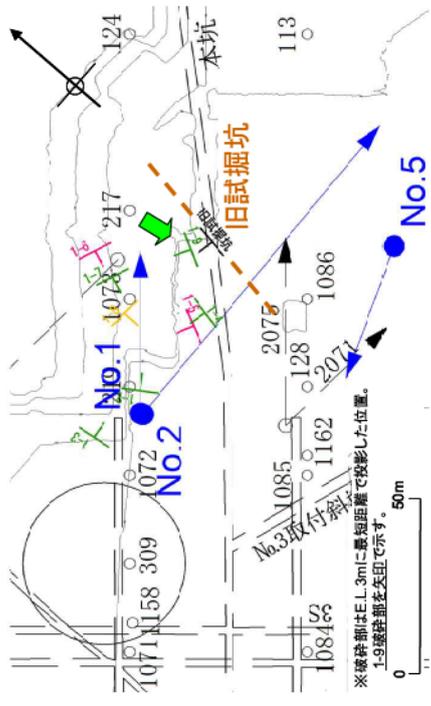
第 3.5.66 図 F-6 破砕帯 ボーリングコア観察結果 (O1-6 孔)

# F-6破砕帯(No.1孔)



b: 盛土  
Qd: 細粒石英閃綠岩、  
Ds: 輝綠岩

深度120.10m～121.30m  
 ・輝綠岩中の幅80cmの角礫状破砕部 (N29E/82W)  
 ・φ5mm以下の細礫主体で所々岩片混じる。120.90m付近に、  
 灰色の細粒部が混じる



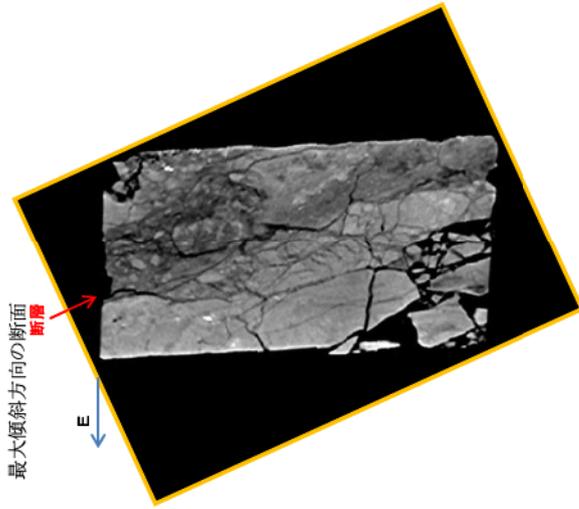
破砕部付近拡大



第 3.5.67 図 F-6 破砕帯 ボーリングコア観察結果 (No. 1 孔)

# F-6破碎帯(No.1孔)

CT画像



条線観察

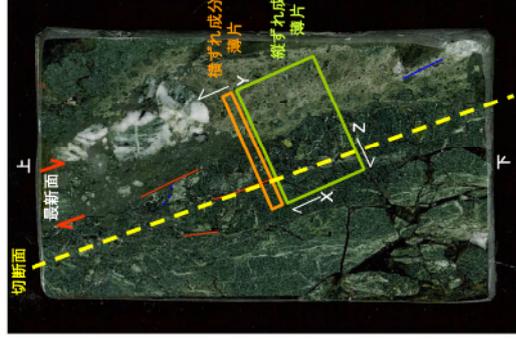
120.86m~121.00m 研磨片 N29E/82W(最新面)



断面の状況



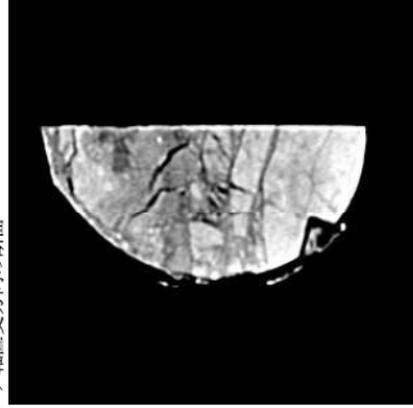
研磨片(縦ずれ成分観察用)



薄片(横ずれ成分観察用)

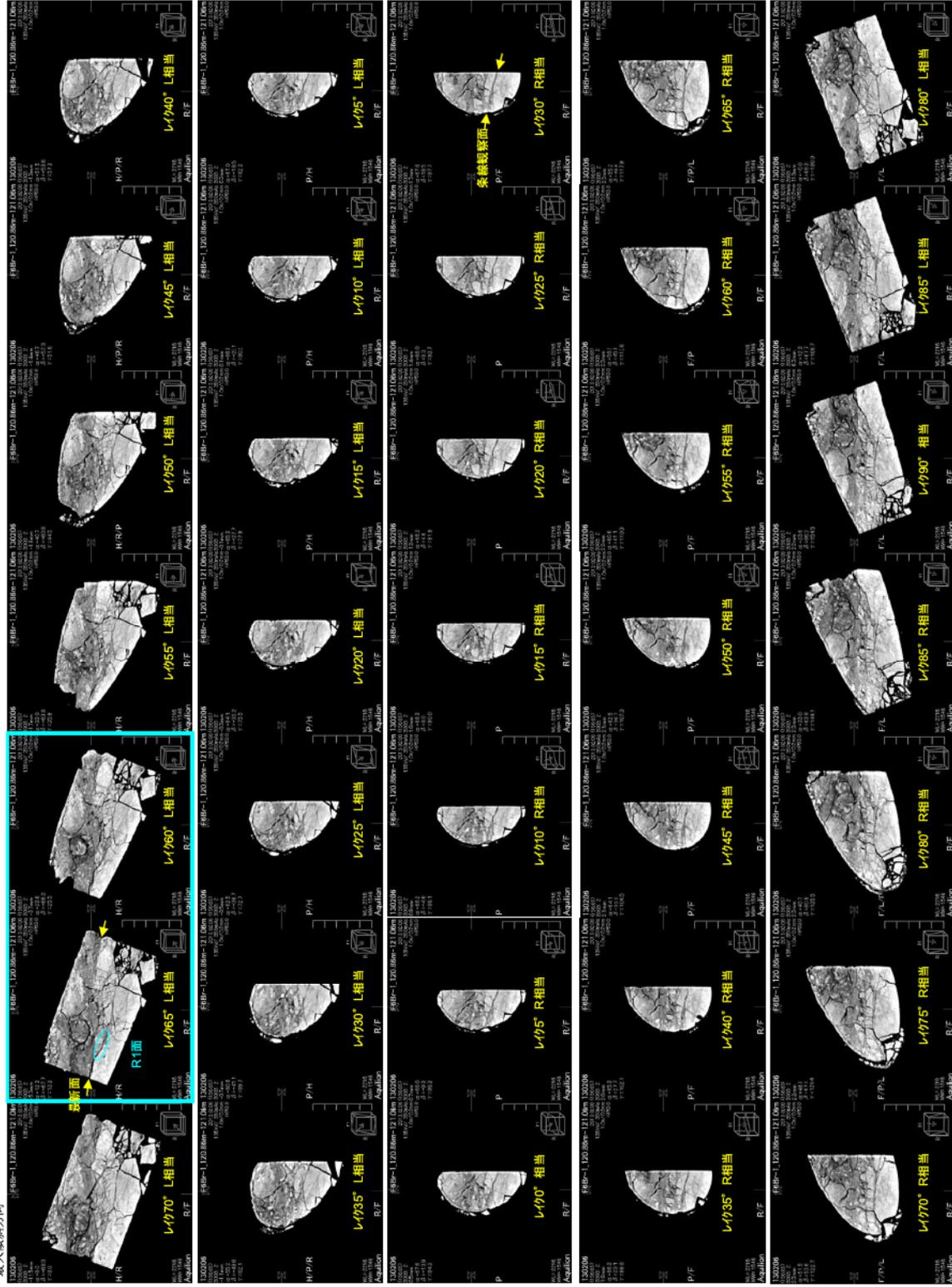


コア軸直交方向の断面



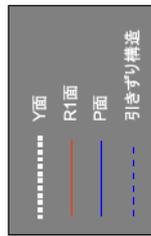
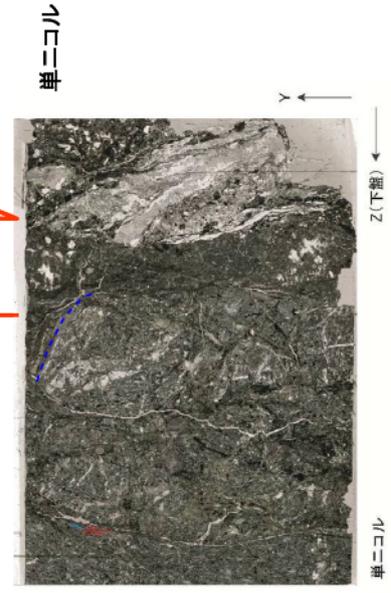
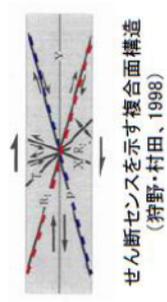
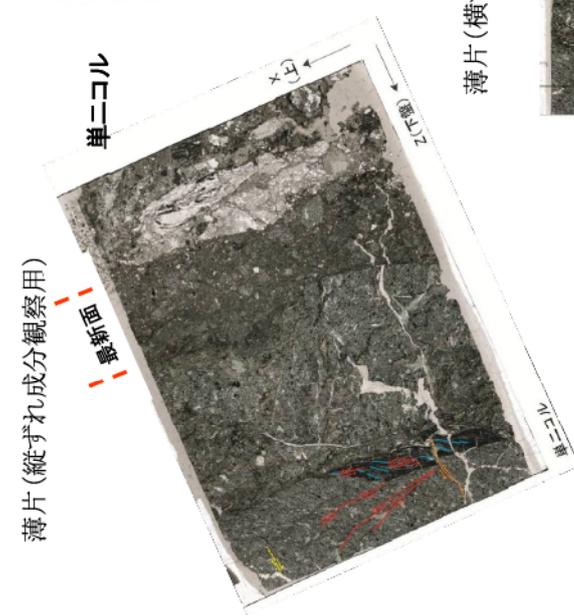
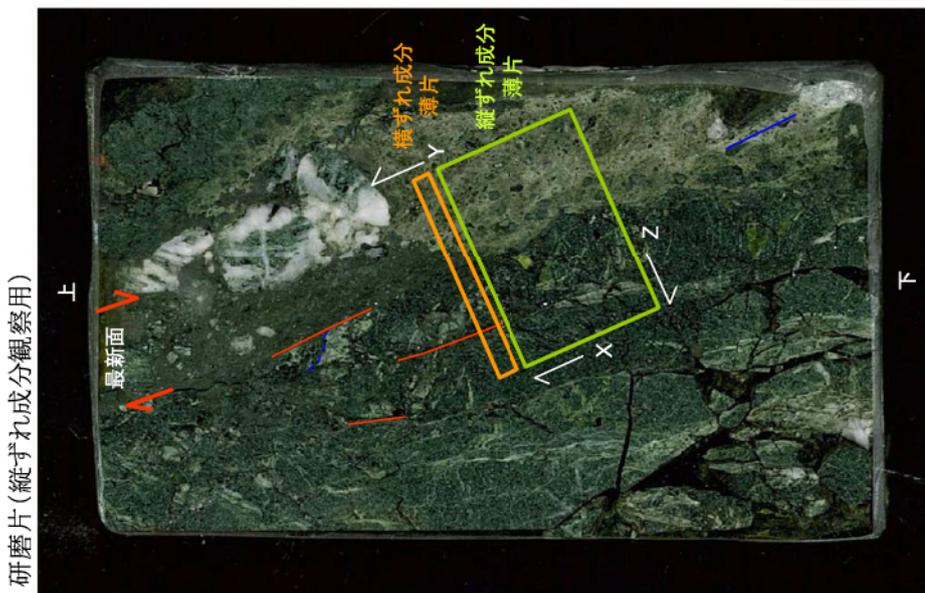
CT画像解析による変位センズは不明

研磨片を切断して条線観察を行った結果、最新面に近接した切断面において30° Rの条線が認められた。これは、最新面の外側に見られる左横ずれ成分が認められる箇所に対応。なお、研磨片の観察面は、約70° Lに相当。



- ・最大傾斜方向から5°ずつ時計回りに回転させたCT画像を示す。
- ・最新面付近のY面やR1面は、条線のレイクが60° L~65° L相当付近で比較的明瞭に見られることから、最新面の条線方向を65° Lと推定した。またCT画像解析により、最新面付近では、右横ずれ・正断層セグメントを示す複合面構造が発達していることを確認した。
- ・条線観察面付近では、レイク30° R相当付近で比較的明瞭なY面が見られる。

# F-6破砕帯(No.1孔)



研磨片観察結果

- 最新面が湾曲。
- 縮状構造を示す連続性の良い断層ガウジ帯は認められない。
- 引きずり構造により、正断層成分が推定される。

薄片観察結果

- 最新面が湾曲。
- 引きずり構造により、右横ずれ成分が推定される。

⇒断層変位センス: 正断層, 右横ずれ

第 3.5.69 図 F-6 破砕帯 薄片観察結果 (No. 1 孔)